

# 健康

## 自己免疫疾患の一つ

# 円形脱毛症

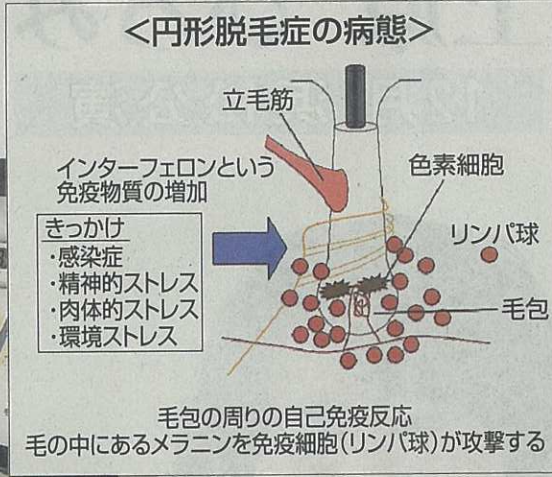
自己免疫疾患の一つ、円形脱毛症。脱毛のきっかけはつきりせず治療法も確立していない。命が奪われる病気ではないが、患者の悩みは切実だ。浜松医科大学付属病院で専門外来を担当する伊藤泰介皮膚科講師に聞いた。

### 伊藤講師(浜医大)に聞く

円形脱毛症は単発型と多発型、また頭全体に及ぶ全頭型、全身が脱毛する汎発型、生え際に起る蛇行型に分類される。伊藤講師は「本来は、がんやウイルスと闘うはずの細胞と多発型、また頭全体に及ぶ全頭型、全身が脱毛する汎発型、生え際に起る蛇行型に分類される。伊藤講師は「本来は、がんやウイルスと闘うはずの細胞

## きっかけ、半数不明

### ステロイドや免疫療法を組み合わせて治療



毛髪の構造を説明する伊藤泰介講師 (イラストも提供) ー浜松市東区の浜松医科大学



する。脱毛が始まるきっかけはインフルエンザ、引越し疲れなど肉体的負担、離婚やいじめなど精神的負担が挙げられる。しかし、これといった自覚がないケース、繰り返し発症するケースもあり、「半数は明確でない」。外来を訪れる年齢は1歳未満から90歳代と幅広い。男女比は1対1とされるが、外来では2対3で女性の方が多く、中でも30代女性が多いという。軽い場合は自然治癒もあるが、外来治療ではステロイドの塗り薬を使う。またステロイドの皮下注射を行うこともある。しかし重症の場合はステロイドの内服と紫外線療法を組み合わせた入院治療も選択肢の一つとなる。主な治療法に、わざとかぶれを起こして脱毛を治す局所免疫療法がある。「免疫にはバランスを取る性質があり、逆方向のバランス、つまり壊すことで正常化するやり方。しかし、これも決定打ではなく、患者に合わせて複数の治療法を組み合わせていく」

男性の薄毛(AGA)はフィナステリド(商品名プロペシア)、ミノキシジル(リアップ)など画期的な薬が登場し、もう一種デュタステリドが臨床試験中と、ある程度治ることが分かってきた。一方、円形脱毛症の研究者や専門医は世界的にも少ない現状がある。このため、専門外来があり症例を多く扱っている病院に患者が集中しがちだ。「QOL(生活の質)の維持が課題。オープンにする人もいれば、学校に行けない、プールに入れないという若い患者もいる。就職差別、恋愛関係で泣く人も見てきた。社会の理解が求められる」

かつらでカバーできるが、経済面の負担が大きい。また、育毛サロンで高額な料金を請求されるといったトラブルも起きている。こうした情報を得るのに患者会やセミナーへの参加も有効という。

### モ

患者会には「日本円形脱毛症コミュニケーション(JAAC)」と「円形脱毛症を考える会」がある。いずれも事務局は東京。11月10日、県内で初の「円形脱毛症を考える会」静岡セミナー」がJR静岡駅ビル「パルシェ」で開催される。午前10時半〜午後4時半。午前は伊藤講師の講演。午後は個別医療相談やワークショップを行う。参加費は会員1000円(非会員1500円)。申し込み方法など詳細は事務局へ電話(3)(3874)8835へ。